

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 北海道地方ブロック中間共有会 資料

活動団体の活動におけるテーマ

陸の孤島の歴史が育むエネルギー自給を中心とした地域循環共生圏づくり

活動地域 : 北海道石狩市浜益区
活動団体 : 浜益地域循環共生圏推進協議会
「続ふかんば」

中間支援主体 : NPO法人ezorock

活動状況（計画の進捗状況）

【資源調査】

きむら果樹園および浜益区内のお祭り等へ出向き、関係人口の受入を行った。関係人口と共に改めて現状の地域資源について知り、今後の事業展開への応用や発信していきたい魅力を見つけることができた。

【旧岩崎養魚場の活用に向けた検討】

任意団体「浜益わかもん会と共に10年前に使われなくなった旧岩崎養魚場の活用について検討を行った。実際に水の流れていなかった水路の整備作業を行い、水を流すなど実地作業および専門家と共に小水力発電設置に向けた調査を行った。



【「ネットワーキング浜益」再録冊子制作・配布】

本協議会の原点にあたる「ネットワーキング浜益」全号をまとめた再録冊子を制作した。浜益区内では高齢者サロンや地域イベントでの配布、図書室や浜益支所へ寄贈した。区民からの反応も良く、関係人口と住民のコミュニケーションツールのひとつになっている。また、地域循環や浜益の歴史に関心を寄せる若者たちの存在を伝える切り口として有効な手段となっている。



【活動を発信する note の立ち上げ・更新】

浜益の魅力を地域循環共生圏の切り口から発信するためのnoteアカウントを立ち上げた。関係人口と意見交換をする中では、地域外向けのWEBの活用および地域内向けへは回覧板などアナログツールの活用についても検討している。



現在の“地域プラットフォーム”

① 現在の地域プラットフォーム



③ 地域プラットフォームづくりで困ったことや課題

- ・ 夏から秋にかけての地域の繁忙期の忙しさは予想以上で、地域内で集まる機会を持つことは難しかった。
- ・

② 地域プラットフォームの進展、変化

- ・ 浜益わかもん会が主体となった活動に、当協議会を通して関係人口が参画できるようになった。
- ・ 30年以上前作られたネットワーキング浜益の再録は、地域の皆様から大変好評で、友人にも渡したい等、口コミで広がっている。
- ・ 今後は、この再録が地域循環共生圏を推進していくテキストブックとして活用していく

④ 課題解決に向けた今後の展望

- ・ 地域内で開催されている浜益の今後を考えるワークショップ（主催：浜益支所・浜益わかもん会）に当協議会も協力団体として参画し、幅広い年代の方との小さな意見交換を重ねながら事業の周知および地域としての合意形成を促進していきたい。

コンセプトペーパー（マンドラ）案

【脱炭素化の推進】

- ・ 釣り堀跡地での小水力発電
- ・ グリーンインフラとの連携
- ・ 未利用材、もみ殻の活用

【集落の活性化】

- ・ RMOの設立
- ・ 地域の魅力発信
- ・ 回覧板等地域内への地域活動の発信
- ・ 廃校、空き家の活用

【地域エコツーリズムの開発】

- ・ きむら果樹園をフィールドにした自然学校

【人材の確保】

- ・ 関係人口創出
- ・ 地域おこし協力隊等との連携
- ・ エゾシカ被害対策、活用

中間ふりかえり（活動団体）

気づきや発見

- ・「ネットワーキング浜益」再録冊子の配布を通して、懐かしさを覚える反応が多い中、内容を深く読んだことがなかったという声もあった。発行当時は関心を示していなかった層へのアプローチも今なら可能になっている感触がある。

課題や悩みに感じていること

- ・冬期間中に事務局機能を再構築し、プラットフォームとしての機能や地域団体への働きかけを強化する必要がある。

中間ふりかえり（中間支援主体）

気づきや発見

- ・団体立ち上げ当初の事務局への負担は大きいためサポートは手厚くする必要がある。
- ・関係人口の受入に関して、ノウハウを言語化しまとめる必要がある。地域の紹介や活動前の動機付けに関しては、人やタイミングによってバラバラではなく共通言語をつくることでクオリティ担保に繋がる。

課題や悩みに感じていること

- ・地域や職種によって、繁忙期は異なるため、それぞれに合わせた介入や提案が必要である。